

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

2938号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 石田直裕：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>

朝霧の山並み (広島県北広島町)



もくじ

随情	フ	政	活
想報	ォ	策	動
	ー		
	ラ		
	ム		

「国と地方の協議の場」に藤原会長が出席、分権改革推進で意見、遠藤東京オリリンピック・パラリンピック大会と地方六団体の意見交換会に藤原会長が出席……………(9)	2020年オリリンピック・パラリンピック大会における「ホストシティ・タウン構想」の推進について 内閣官房東京オリリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部事務局 内閣官房オリパラ事務局 羽生雄一郎……………(10)	大磯町を楽しまう！観光を通じた持続可能な「まちづくり」〜神奈川県大磯町……………(13)	新日本歩く道紀行100選……………(17)	住んでみたい 住んで良かった 魅力ある村を目指して……長野県松川村長 平林 明人……………(18)
---------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------	-----------------------	---------------------------------------------------

コラム

カナリア

読売新聞東京本社論説委員
コラム『編集手帳』執筆者

竹内 政明

夏目漱石は伊豆・修善寺温泉で吐血し、人事不省に陥った。1910年(明治43年)の夏、世に言う「修善寺の大患」である。生死の境界をさまよひ、小康を得た。横に見る世界と豎に見る天地と異なることを知る」と日記に書いている。健康な日々が「豎」の暮らし、病床の時間が「横」の暮らしだろう。横に見る世界では人の情けが身にしみたらしい(仰向に寝た余は天井を見詰めながら、世の人は皆自分よりも親切なものだと思つた)『思い出す事など』。医師や看護師は申すにおよばず、友人知己から見ず知らずの人までが寄せてくれた厚情に心から感謝する気持ちは、大病を経験した人ならば存じだつた。

かく申す私もその一人である。7月に脳梗塞を患い、半月ほど入院した。手当てが早かつたおかげで、発症から4時間以内で用いられ血栓の相当部分を溶かすことができるという薬剤が筒に合い、後遺症は幸いそう重くない。9月からコラム書きの仕事に復帰している。仕事に影響するほどの後遺症をひとつ挙げる

とすれば、人の情けが身にしみすぎて気持ちが妙に優しくなつたことである。女優の高峰秀子さんは若い頃、映画監督の山本嘉次郎に教わつたという。「普通の人でもタクアンは臭いと思うだろう。でも、俳優は普通の人の2倍も3倍も臭いと感じなきゃダメなんだな。回想談にある。タクアンはものたとして、喜怒哀楽の感受性を指しているのだろう。

コラム書きも俳優と同じく喜怒哀楽、なかなか世の不正に対しては人の2倍も3倍も公憤を感じなくては務まらない商売である。それが退院してからというもの、やけに人間がまるくなつてしまったことに我ながら少々困惑している。怒りを忘れたコラム書きもいずれば歌を忘れたカナリアのように、「うしろの山」に捨てられるさだめかもしれない。

(生きて仰ぐ空の高さよ赤蜻蛉(漱石))。まあ何はともあれ、生きて秋の空を仰ぐことができた身である。うしろの山もまた楽しからずや。そう思わぬでもない。